

金利指標改革を踏まえた 全銀協TIBORの現状および今後の展望 (2026年6月)



1

**全銀協TIBORは、
短期金融市場の各種
データにもとづき、
客観的に算出されて
います。**

全銀協TIBOR（当運営機関が算出・公表する指標の総称、現状は日本円TIBORのみ）は、2017年に実施した「全銀協TIBOR改革」により、各種データにもとづく一層客観的な（恣意性を排除した）算出プロセスとして「ウォーターフォール構造」を導入しました。

説明資料 P.6,7へ

2

**全銀協TIBORは、
国際的な原則を完全
遵守した運営態勢の
もと、算出・公表さ
れています。**

「全銀協TIBOR改革」の実施以降も、IOSCOの「金融指標に関する原則」において認識している一部課題の解消に向けて改革の取り組みを進めた結果、当運営機関の運営態勢は、同原則を完全遵守している（同原則に係る課題はない）との評価に至っています。

説明資料 P.11へ

3

**日本円TIBORは、
公表を継続する指標
として、透明性・頑
健性・信頼性の維持、
向上を目指します。**

日本円TIBORは、国際的にも認知され、市場において引き続き広く利用されるよう、IOSCOの「金融指標に関する原則」の遵守は勿論、グローバルな金利指標改革の動向を注視し、同指標の透明性・頑健性・信頼性の維持、一層の向上を目指します。

説明資料 P.12へ

Q1

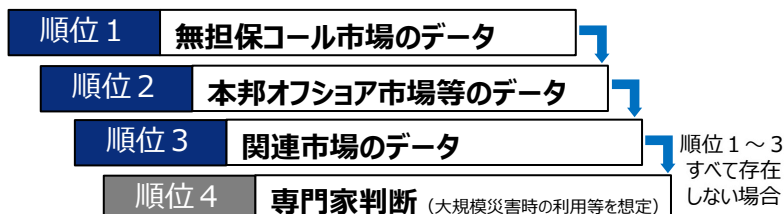
全銀協TIBORの呈示レートの算出・決定プロセスに導入された「ウォーターフォール構造」について教えてください。



A1

- ✓ 全銀協TIBORは、その算出に当たって当運営機関やリファレンス・バンクによる恣意的な操作を排除した客観性の高い仕組みとなっています。
- ✓ リファレンス・バンクの呈示レートの算出・決定プロセスを統一・明確化することを一つのコンセプトとして実施した「全銀協TIBOR改革」（2017年7月）において、一段と客観性を高めるべく、算出・決定プロセスに導入されたのが、以下の「ウォーターフォール構造」です。

＜日本円TIBORの「ウォーターフォール構造」の概要＞



以上の、順位1～3を順にみてデータが存在するところで呈示レートが算出・決定されます。

Q2

「全銀協TIBOR改革」（2017年7月）以降に実施された改革の取組みやその結果について教えてください。



A2

- ✓ 当運営機関は、指標の運営機関が遵守すべきとされるIOSCOの「金融指標に関する原則」において認識している一部課題の解消に向けて、「全銀協TIBOR改革Next」を推進してきました。
- ✓ 2024年12月末までの取組みをもって同対応を完遂しており、その結果、当運営機関の運営態勢は、同原則を完全遵守している（同原則に係る課題はない）との評価に至っています。

＜「全銀協TIBOR改革Next」の取組み成果＞

- 全銀協TIBORの公表を停止した場合等における適切な代替指標（フォールバック・レート）等を整理（2023年3月）
⇒IOSCO原則13：「移行」に係る一部課題を解消
- ユーロ円TIBORの恒久的な公表停止を実施（2024年12月末）
⇒IOSCO原則7：「データの十分性」に係る一部課題を解消
- ✓ 今後は、公表を継続する日本円TIBORの頑健性等のさらなる向上を目指します。